

MISSION 03 / 観光・地域プロジェクト

森も、川も、温泉も、歌舞伎も。鮭川の日常を、訪れる理由に変える 3 年間。



山形県北部、最上地域にある鮭川村。鮭川村を少し高い場所から眺めると、田んぼの間を鮭川が大きく蛇行しながら流れています。



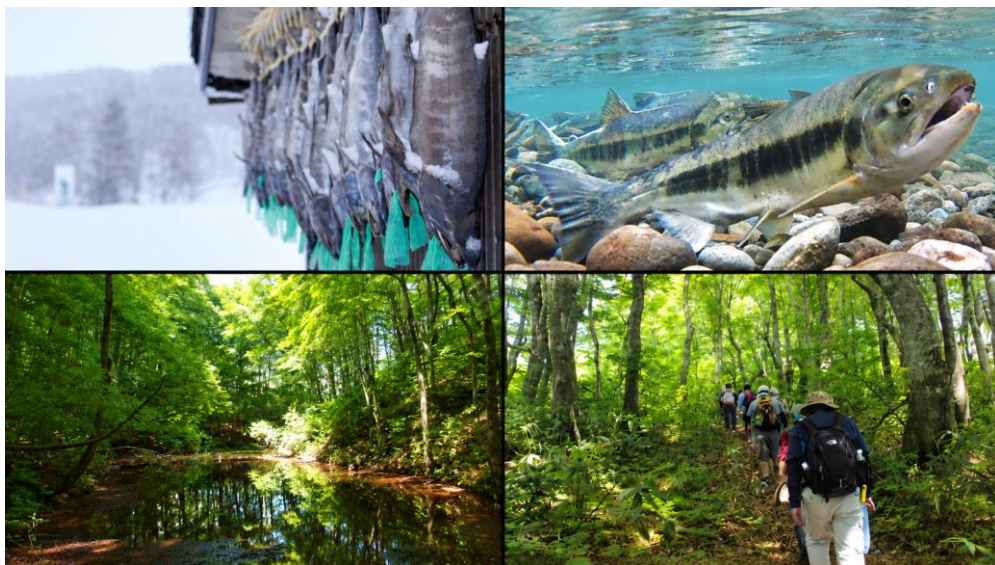
村の真ん中を流れる鮭川と、田畑・集落・山々。

村の人にとっては、昔からそこにある景色。でも、かつて地域おこし協力隊として鮭川にやってきた人は、その風景を見て「こんな原風景が残っているのか」と驚いたそうです。村の人にとっての“いつもの景色”が、外から来た人には特別に見えた瞬間でした。

日常の中に、旅の入口がある。

この地域では昔から鮭を「よう」と呼び、冬を越すための食文化としても受け継いできました。ところが、地元で生まれ育った人にとっては、鮭がいることさえあまりに日常で、その価値をあらためて考える機会は多くなかったといいます。

山へ入れば、与蔵山にはブナの森があります。地元では身近な山だった場所も、外から来た人が歩いてみると、柔らかな登山道や森の豊かさが新鮮に映る。そこから実際に、村の人たちとトレイルランニングを楽しむ動きも生まれました。



大自然と共にある暮らし

ほかに、山あいにはひっそりと続く羽根沢温泉。

江戸時代から地域の人が受け継いできた鮭川歌舞伎。

「トトロの木」と呼ばれ、村の景色の一部になっている小杉の大杉。

森の中に泊まり、朝を迎えられる鮭川村エコパーク。

鮭川には、「観光のためにつくられたもの」より、暮らしの中でずっと残ってきたものがあります。



鮭川を遊び尽くす村民

春には山の緑が濃くなり、夏には川で遊ぶ。

秋には鮭が戻り、きのこが並び、冬には雪の中で温泉に入る。

季節が変わるたび、同じ村なのに過ごし方も変わります。

ひとつひとつは、鮭川で暮らす人にとって、ずっとそこにあったものです。

けれど、場所だけでなく、そこで暮らす人や季節まで一緒にたどってみると、鮭川で過ごす一日そのものが旅になっていきます。今回の協力隊にお願いしたいのは、その入口を増やしていくことです。



川、御神木、雪、紅葉。日常の風景も、外から見ると旅の入口になる。

村を歩き、人に会い、「この景色は誰かに見てほしい」「この人の話をもっと聞いてもらいたい」「ここから、こんな過ごし方がつくれそうだ」と気づく。そうした小さな発見を、地域の人と一緒に“訪れる理由”へ育てていく。それが、この観光・地域プロジェクトの仕事です。

鮭川村では、すでに挑戦が始まっています。

何もないところに、突然新しい観光を持ち込む仕事ではありません。鮭川ではこれまでも、地域の人、役場、観光協会、協力隊が、それぞれの場所で「どうしてもう一步、外の人に届くだろう」と試してきました。

羽根沢温泉では、開湯 100 周年をきっかけにマルシェや記念事業を開催しました。温泉に入って帰るだけではなく、地域の人や出店者と出会う時間をつくるためです。



羽根沢温泉に大きな賑わいが生まれました

鮭川歌舞伎では、解説や送迎、ライブ配信などを取り入れ、初めて見る人にも文化が届く方法を探ってきました。鮭の文化を伝えるため、地域おこし協力隊がクラウドファンディングを活用してフォトブックをつくった例もあります。

また、別の協力隊が、自分の得意だったイラストをきっかけに、観光案内看板やチラシ、地域からの制作依頼へと仕事を広げていったこともありました。その時々地域の人と相談しながら、小さく試し、次の動きにつなげてきた。その積み重ねが、今の鮭川にはあります。

でも、まだ「一つの旅」にはなっていません。

資源が足りないわけではありません。むしろ、村のあちこちにある魅力が、それぞれの場所で頑張っている。だからこそ、次に必要なのは、**その間をつなぐ**ことです。

羽根沢温泉に泊まった人が、翌朝どこへ行くのか。エコパークに来た家族が、村の中で誰に会い、何を食べるのか。秋に鮭を見に来た人が、冬の鮭川にも来てみたくなるには何が必要なのか。イベントを知った人が、宿泊や買い物、次の来訪へつながるには、どんな導線があればいいのか。



鮭川村の魅力を線に繋げていく

大げさな観光開発ではなく、小さなつながりを一つずつ増やしていく。鮭川村に足りないのは、新しい名所ではなく、すでにあるものを見つけ、つなぎ、試し、続く形へ育てる人です。

「観光をつくる」というより、鮭川で過ごす新しい時間をつくる仕事です。



鮭川村で活動してきた、先輩協力隊たち

あなたの得意を、鮭川に重ねてください。

このミッションは、最初から仕事の形が全部決まっているわけではありません。観光を入口にしながら、**自分の経験や得意を地域に重ねる余白**があります。

写真や映像が得意なら、鮭川の見え方を変える。食が好きなら、農家や料理人と人に会う旅をつくる。アウトドアが好きなら、川や森、雪の中で過ごす時間を考える。発信やデザインが得意なら、まだ知られていない人や場所を外へ届ける。

「これをやってください」だけではなく、「**鮭川で、これをやってみたい**」という提案も歓迎します。

ただし、一人で好きなことをする仕事ではありません。村の担当者、観光協会、エコパーク、羽根沢温泉、文化や行事を守る人、村内事業者、ほかの協力隊。まずは「**誰と一緒にやるのか**」を考えることから始まります。



村の担当者や地域の人たちと、一緒に考えながら進めます。

3年間で、地域を知る人から、自分の仕事をつくる人へ。



1年目 | 鮭川を歩き、人に会う

羽根沢温泉、エコパーク、行事、自然、事業者の現場に入り、自分が惹かれるテーマを探します。小さな企画を一つ、二つ試してみる一年です。

2年目 | 見つけたテーマを磨く

来た人の反応や地域の声を見ながら、内容、料金、広報、予約方法、役割分担を整えます。村外の人や事業者ともつながりながら、続けられる形へ育てていきます。

3年目 | 地域に残し、自分の次の仕事へ

成果の出た体験やつながりを、一度きりで終わらせず地域に残す。同時に、就業、業務委託、小さな起業など、任期後も鮭川と関わりながら働ける形を考えていきます。

鮭川の観光は、まだ完成していません。

だからこそ、これから入る人が関われる余白があります。やりたい企画を持って来てもいい。まだ何をしたいか決まっていなくても構いません。

まずは鮭川に来て、温泉に入り、川を見て、人に会って、一日を過ごしてみてください。

その中で、「ここなら、こんなことができるかもしれない」と思えるものを、一緒に探していきたいと思います。

鮭川で過ごす時間を一つ増やす。

そんな観光を、鮭川の人たちと一緒につくってみませんか。

(お問い合わせはこちらから)

<https://forms.gle/uqB8izSV54SNG4Ei7>

鮭川村
SAKEGAWA VILLAGE

地域おこし協力隊

- 1.きのこ産業PR/販売促進
- 2.鳥獣被害対策/猟友会サポート
- 3.観光・地域プロジェクト

募集

CULTURE
伝統文化・芸術

HUNTING
鳥獣対策・狩猟文化

山の恵みを、
守り、活かす

LOCAL FOOD
きのこ産物・特産品

NATURE
自然環境・自然景観

清流「鮭川」

TOURISM
休養・滞在・観光

OUTDOOR
キャンプ・アクティビティ

SEASONS
四季の風景・里山の暮らし

季節ごとに
表情を変える、
豊かな里山

(全体の募集記事はこちら)

別記事 URL